

書道Ⅱ 課題 二年 組 番( )

教科書をよく読んで、古典を鑑賞し、記入しましょう。  
 問題の答えは楷書で丁寧な書きまよう。

次の文章の( )に当てはまる語句を□に記入しましょう。  
 ・喪乱帖は、(ア)の書簡三通を一紙に(イ)した複製で、現存の(イ)中最もすぐれたものです。  
 ・点画の(ウ)や紙のいたみまで精巧に再現され、(エ)が存在しない(ア)の書の真相を知るうえで、最も信頼度の高いものとされています。

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

京都の西本願寺に伝来した「ア」のうち、「伊勢集」と「貫之集」の(イ)を「石山切」とよびます。  
 (ア)の料紙は、(ウ)・陸奥紙・厚様・薄様といった何種類もの用紙を多用し、そこに金銀泥による(エ)を施した華麗な美しさが特徴です。

切り継ぎ、(オ)継ぎ、重ね継ぎの技術を自在に駆使した料紙装飾技術は、(カ)時代の王朝文化を象徴するものとして知られており、紙そのものを装飾することによって、(キ)の風景や絵画のような世界を創るのが、(カ)時代の美意識の一つだったといえます。

ア	イ	ウ
エ	オ	カ
キ	ク	ケ

(ア)は漢字の五つの書体(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(カ)の中で最も古く、他の四つの書体に比べて字形が複雑であるのが特徴です。  
 現在確認できる最古の漢字は、紀元前十四世紀〜紀元前十一世紀中頃、中国の殷王朝で使われていた(オ)で、占いの結果を亀甲や獣骨に鋭い刃物で刻んだことから、亀甲獣骨文・契文ともよばれています。

殷の末期とそれに続く周の王朝では、王室や国家の祭祀儀礼のためにさまざまな青銅器が作られました。器の中には、内側に文字を鑄込んだ(銘文)ものもあり、その銘文を、(カ)または鐘鼎文といいます。  
 春秋・戦国時代になると、国ごとに異なる文字が使用され、文字の姿に地域差が見られるようになります。(キ)とよばれる戦国時代秦国の石刻「石鼓文」はその例です。  
 戦国時代を制し、紀元前二二一年に天下を統一した秦の(ク)は、自国在来の文字を基準に各国で使用されていた文字を統一しました。「泰山刻石」はその例で、これを(ケ)といいます。

ア	イ	ウ	エ
オ	カ	キ	ク
ケ	コ	カ	キ

(ア)の始皇帝は、天下を統一すると、紀元前二一九年に諸国を巡遊し、自己の徳をたたえる文を六箇所の石に刻させました。そのうちの二つが、現在山東省泰安の岱廟に安置されている(イ)です。  
 (ウ)長で均整のとれた静止的で無表情な趣きの文字は、(エ)の典型として尊重されています。

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

【召尊】

月

父

光

【甲骨文】

臣

王

子

・召尊は、(ア) 時代初期に酒器として使用されたとみられる(イ)です。

・(イ)の銘文(金文)の多くは、鑄銘(文字を鑄込んだもの)で、(イ)内部の(ウ)や側面、時には蓋の裏側などに、(エ) (凹文)で鑄込まれています。

・甲骨文は、亀の腹甲や(オ) (主に牛の肩胛骨)に、王室の祭祀、戦争や狩猟、農作物の豊凶などに関する(カ)の結果を鋭い(キ)で刻んだもので、各文字は、直線を主力に構成されています。現存最古の(ク)ですが、象形文字の他に、二つ以上の要素を組み合わせて一字を構成した会意や形声など、複雑な文字も見られることから、文字としてすでに発達したものと考えられています。

オ	ア
カ	イ
キ	ウ
ク	エ

次のア〜オの古典名を□に記入しましょう。また、時代の古い順に並べ替え、□に記号を記入しましょう。

ア 青龍左君歎

ア □

イ 田交 大復 目通 少三 各 毛 大 二 豎

イ □

ウ 君講遷字公方

ウ □

エ 始建國天鳳

エ □

オ 博言節飲食知足勝

オ □

時代の古い順

↓

↓

↓

↓

↓

次の文章の( )に当てはまる語句を□に記入しましょう。

(ア)が公用書体であった秦時代に、(ア)を日常用いるのに便利なよう、(イ)に速く書こうとしたことから発生したのが隷書です。

戦国時代を制し天下を統一した秦の(ウ)は、自国在来の文字を基準に文字の(エ)を図りましたが、日常筆写における(イ)体の使用を認めていました。一九七五年の考古学的発掘によって発見された竹簡「雲夢睡虎地秦簡」は、篆書を速く(イ)に書いた日常筆写の例です。(ア)に比べ点画は直線的で、右払いの収筆に隷書の(オ)のような筆勢も認められることから、これを秦隷といえます。

続く前漢時代になると、(カ)に書かれた書物「馬王堆帛書」のように、字形も整い(オ)が顕著に表れるようになり、前漢の末には、木簡などの日常筆写において、(オ)を強調した(キ)とよぶ様式が整い、隷書は篆書に代わる公用書体として発展しました。

オ	ア
カ	イ
キ	ウ
	エ

隷書の基本について記述した次の文章の、( )に当てはまる語句を□に記入しましょう。

- ①起筆は(ア)筆、藏鋒。
- ②運筆は中鋒(筆先が画の(イ)を通る)。
- ③字形は(ウ)、横画は(エ)、(オ)間隔。
- ④(カ)がある(ただし一字の中で一画だけ)。

ア	イ	ウ	エ	オ	カ
---	---	---	---	---	---

例にならって、左の文字に筆の穂先の通り道(筆路)を書き入れましょう。

隷書の

例

	亡
	之
	以
	為
	景

次の文章の( )に当てはまる語句を□に記入しましょう。

曹全碑は、曹全の徳政をたたえた頌徳碑で、(ア)の**中平二年(一八五)**に刻されました。長い間土中に埋没していましたが、明時代になって**陝西省郿陽県**より出土し、現在(イ)博物館に収蔵されています。書風は**秀麗典雅**と評され、のびのびした(ウ)が美しく、典型的な(エ)の隷書として尊重されています。

ア	イ	ウ	エ
---	---	---	---

次の文章の( )に当てはまる語句を□に記入しましょう。

乙瑛碑は、(ア)の**永興元年(一五三)**、魯国の相(大臣)乙瑛の申請により、(イ)に**百石卒史(廟の祭祀を掌る役人)**が置かれたことを記念し、乙瑛ほか関係した人々の功績を称えた碑で、現在**山東省(ウ)**にある(イ)に収蔵されています。

ア	イ	ウ
---	---	---

学習の自己評価 A・B・Cで( )に評価を記入しましょう。

- 乙瑛碑について基本的な知識を得ることができたか。
  - 乙瑛碑の用筆、字形や結構、線質の特徴を理解し、臨書に生かすことができたか。
- A 達成された    B おおむね達成された    C 課題が見いだせた

④草書の古典に学ぼう 書譜②

教科書  
38~39  
ページ

古典を観察し、右側の空欄に硬筆で書きましよう。(鉛筆の場合は2B、または、ゲルインクのボールペンや万年筆などを使用ましよう。)

どっちも書く  
↓

同  
萃  
思  
遏  
手  
蒙  
五  
合  
交

同  
萃  
思  
遏  
手  
蒙  
五  
合  
交

臻  
神  
融  
筆  
暢  
無  
不  
適  
蒙

臻  
神  
融  
筆  
暢  
無  
不  
適  
蒙

無  
所  
從  
当  
仁  
者  
得  
意  
忘  
言

無  
所  
從  
当  
仁  
者  
得  
意  
忘  
言